

# 肥満者の糖尿病抑制にロルカセリン

選択的脳内セロトニン 2C 受容体作動薬で、食欲を抑制するロルカセリンは、肥満者の持続的な減量を促進することが示されていますが、Erin A Bohula 氏らは、ロルカセリンが血糖コントロールを改善し、肥満や過体重患者の糖尿病発症リスクを減らしたと報告、詳細が Lancet 誌に掲載されました。



3年間のロルカセリン群の糖尿病発症率は6.7%、プラセボ群は8.4%で、ハザード比は0.77 (0.63-0.94) でありました。



1年後時点の体重が、ベースラインから5%以上減少していた患者の割合は、ロルカセリン群で有意に多い結果でありました。



1年後のHbA1c値は、プラセボ群によりも  
ロルカセリン群で大きく低下していました。



ベースラインで糖尿病だった患者の、細血管  
障害（持続する微量アルブミン尿/糖尿病網膜症  
/糖尿病神経障害）発症率を比較すると、ロルカ  
セリン群 10.1%、プラセボ群 12.4%で、ハザ  
ード比は 0.79（0.69-0.92）でありました。